

2 3 2

こんにちは。塾長の大井です。

6期生受験戦記第17回です。

クラスみんなも1月は戦っていました。

前にも触れましたが、この時期まだ伸びるのかという質問に対する答えは、圧倒的に yes です。そしてその伸びしろの大きさこそが TOP の強みだと思っています。とはいえ、その伸び方は当然全員一様ではありません。自分の弱点や失点の傾向と向き合える生徒だけが、何より第一志望への想いが切実である生徒だけが、一戦ごとに成長していきます。

逆に言えば何となく受験している生徒や、行けたらいいなという甘い見立てでやってきた生徒には非情な現実が突きつけられます。

6期生もそうでした。特に千葉御三家の東邦中ではその結果が顕著に現れました。5期生が4人も合格を取ってきたのに対し、6期生で受けた中位層の3人は全員が敗れました。千葉御三家の市川中、東邦中は理社の比重が高く全教科100点の4科均等配点です。自分の弱点科目や苦手分野と向き合って来なかった生徒には即命取りになってしまいます。

そういう意味でも本番でやられる経験はとて大きく、これをしっかり受け止めた生徒は2月に向けて加速します。

忘れてはならないのは、たとえ低学年からやって来たからといって、いくらいい先生についたからといって、中学受験は誰もが受かるわけではないという真実です。

答案はとことん正直で、受験はどこまでも非情です。

家族の覚悟と本気の後押し、教師の技術と情熱、そして何より本人の切実な想いが揃った時、初めて合格の芽が生まれ、中学受験は本当に意味のある営みになり得ます。

そして早くにそれを感じられた者だけが、主体性を持って自分の頭で考え、自分の足で歩めるようになります。

1月には破格の大金星があり、苦い敗戦がありました。

それぞれの結果を噛み締め、ついに2月本番の足音が聞こえてきた時、彼らがやって来たのです。

(第18回につづく)

2021年5月15日

大井 雄之